

平成30年度
第2回 天童市総合教育会議 資料

平成31年3月25日（月）午前10時30分～
市役所3階会議室

協議・調整事項

- (1) 教育大綱に基づく平成31年度の教育方針について
- (2) 「天童市立中学校における部活動の在り方に関する方針」について
(別冊)
- (3) その他

天童市教育委員会

平成31年度の教育方針

天童市教育委員会 教育長 相澤 一彦

1 根本となる見方・考え方

人は、自己存在感、自己有用感を持つことで、力を発揮してみよう、向上しながら生きていこうとするエネルギー＝意欲が生まれてくる。そのために、一人ひとりがかけがえのない存在として認め合うことが教育の大切な前提となる。そのうえで、よりよく生きる知恵や知力を、徳（人間性）と体（心身の健康）とともにつけていくこと、そして同時に、生きる場である地域、郷土に愛着と誇りを持つこと、この二つが自己のさらなる豊かな成長と人を含めた郷土の永続的な発展とともに重要である。

2 天童市の教育の三つの柱

天童の教育 三つの柱

- 1 一人ひとりを大切にする教育
- 2 学びに向かう力を育む教育（学力向上の保障）
- 3 郷土を担う人づくりの教育

1 一人ひとりを大切にする教育

(1) 深い児童生徒理解のできる教員の育成

職場内での研修と対話の充実（OJT）、特別支援教育の視点

(2) 教育的ニーズに応じた教育（特別支援教育）の充実

障がい特性に応じた教育

(3) 生きる力を育てる教育（いじめや不登校等生徒指導）の充実

S S W 有効な活用、これまでの体制の維持と充実

だれもが認められ大切にされる、居場所があるあたたかな教育

2 学びに向かう力を育む教育（学力向上の保障）

（1）深い学びを約束する指導力の向上

新学習指導要領移行期の充実と研修

（2）新しい教育（ICT、英語、道徳等）の方法や領域の充実

成果の検証と公表（次年度の施策の見通し）

（3）家庭の教育力向上と食育の推進

P T A と連携した携帯端末使用ルールの推進

よりよい生活習慣の推進

次代を生き抜く知恵と技能を身に付ける、たくましさを伸ばす教育

3 郷土を担う人づくりの教育

（1）郷土を知り、郷土との関わりを育む学校教育

開かれた教育課程の整備、充実

（2）公民館活動や地域活動を充実させる体制づくり

地域サポーター（ボランティア）活動の推進

（3）芸術・文化、スポーツの振興を育む教育

教育課程への位置づけと柔軟な教育課程

市民としての自覚を促し、郷土に生きる思いや希望を育てる教育



天童の教育 三つの柱

- 1 一人ひとりを大切にする教育 ⇨ 特別支援教育と「いじめ・不登校」
- 2 学びに向かう力を育む教育 ⇨ 学力、ICT、英語力の施策と評価
- 3 郷土を担う人づくりの教育 ⇨ ふるさと学習と「市民科教科書」作成

平成30年度特別支援教育充実事業

すこやかスクール充実事業

学力向上の基盤づくり
不登校、いじめの未然防止

《学習指導と生徒指導の一体化》

- * 教員の児童生徒理解を深める
- * 授業における配慮や工夫を明らかにする
- * 一人一人がわかる授業を行う
- * 見通しをもった計画的な教育支援（就学指導）、進路指導に活かす

* 校内の相談体制、情報の共有を常時 チェック、改善！
* コーディネーターが活躍できる学校経営

すこやか相談

専門家チームの全児童生徒のスクリーニング

個別発達検査による個々の教育的ニーズの把握と支援の見極め

- ☞ 家庭や医療との連携により支援や指導の質を向上させる
- ☞ 個別の教育支援計画・指導計画の実行的活用と移行支援計画による小中連携

特別支援教育基礎研修講座

特別支援教育の研修未受講の教員への研修

児童生徒の困り感の理解、支援・指導の考え方と方法の習得

- ☞ 全ての教員が特別支援教育について理解を深め、着実に実践

すこやかスクール支援員の配置

17名の支援員を実情に応じて配置 ☞ 校内の支援体制整備

ネット関連のいじめ対策

(1) 未然防止の取組

①情報モラル教育の充実

| | 対 象 | 研修名 | 講 師 |
|-------------|------------|------------------------------|---------------|
| 小 学 校 | 3年～6年 | ネットモラル研修会 非行防止教室（SNS講話含） | 天童警察署 |
| | | スマホ・携帯安全教室 | NTTドコモ |
| | 保護者・教職員 | メディアに触まれる子供たち | 国立病院機構 |
| | | ネットモラルについて | 総務省 |
| 中 学 校 | 1年～3年 | ネットモラルについて 非行防止教室（SNS講話含） | KDDI 天童警察署 |
| | 保護者・新入生保護者 | ネットモラルについて | |

②家庭との連携

さわやかアウトメディアチャレンジ旬間 11月の10日間で実施

- ◇TV・ゲーム・PC・メール等の使用を児童生徒が記録。
- ◇ゲーム・スマホの使用時間を中学校区で統一したルールを決めている。

家庭教育宣言

「家庭教育宣言」としてPTAが以下の心構えを示し、保護者で共有

- ネット接続機器の使用時間の制限
- 通信内容を保護者が把握
- 先輩からのメッセージの遵守
- 困ったら保護者に相談

メディアに関するアンケート

- 保護者対象のメディアに関するアンケートを実施
- アンケート結果の公表、ノーゲームデーに向けた取組み、
 - ・情報モラルに関する啓発や家庭でのルールを示す
 - 相手を傷つける書き込みはしない。
 - 動画のアップロードはしない。
 - ネットショッピングやオークションは利用しない。 等

③家庭・地域、PTAとの連携

| 実施主体 | 対象 | 研修等 | 講師 |
|-----------|-----|------------------|-------|
| 市子供育成会連合会 | 保護者 | ネット危険からお子様を守るために | 天童警察署 |
| 市PTA連合会 | 保護者 | ネット・スマホの安心安全講座 | |

(2) 早期発見の取組

ネット上のいじめに気づく工夫と努力

- ネット上のいじめは、もともとその把握が難しいものであり、いじめられている本人が気づかないところで進行する場合もあることをふまえる。
- 被害が短期間で深刻な事態になるという認識をもつ。
- ネット上のいじめも、現実の人間関係が色濃く反映されることから、現実の人間関係を適切に把握する。
- ネット接続可能なICT機器について、誰が、何を、どんなことに利用しているのか、常日頃から児童生徒理解に努める。
- ネット接続可能なICT機器を所持していない児童生徒でも、陰で誹謗中傷を受けることが考えられる。身近な友達がトラブルに巻き込まれているのを発見した際、どのような対応をすればいいのかを日頃から指導しておくことが大切。
- トラブルに巻き込まれた児童生徒が見せる変化を敏感に察知し、小さなサインでも見逃さないという意識を高め、児童生徒の様子に目を配ったり、児童生徒の心に寄り添いながら声をかけたりするなど、積極的に捉えようとするのが大切。

平成30年度 天童市立第四中学校

家庭教育宣言

私たち保護者は、

1. 午後9時から翌朝午前7時まで、インターネットに接続できる通信機器を保護者が預かります。
1. 通信内容は、保護者が確認できるようにします。
1. ネットトラブル防止のためにいただいた、『先輩からのメッセージ』を遵守させます。
1. 困ったことになった場合は、保護者に相談するよう子どもと約束します。

以上のことを心に刻み、子供たちがインターネットによる被害者とならないよう、私たち保護者は一致団結し、子供たちを守り、そして育てていきます。



内閣総理大臣賞受賞

資料 No.

人生を駆け抜ける

山形県 天童市立第三中学校 3年

岩淵 礼姫

「死にたい」、私はつぶやいた。期待に胸をふくらませていた中学校生活。しかし、そこにまっていたのは卑劣ないじめだった。指をさされ笑われた。トイレのドアをたたかれ罵声をあびせられた。すれ違うたびに馬鹿にされた。毎日苦しかった。悔しかった。もう死ぬしか逃げ場所がなかった。

そんな限界まで追い込まれた私は、ある日の朝爆発した。声が枯れるくらい泣きじゃくり、母に全てを打ち明けた。母は私の話を受け入れ、強く抱きしめてくれた。久しぶりに触れた人のぬくもりに、涙が止まらなかった。

その後、私はたくさんの人に助けられた。いじめをした人に直接注意してくれたクラスメイト、私のことを一番に考え、守ってくれた両親、陰ながら支えてくださった保護者の方々、相談に乗っていただいたり見守ってくれたりした先生方。その人たちのおかげで、「私は独りじゃない、心を閉ざさず自分を表現していいんだ。」ということに気づかされた。そして、私は一歩前に踏み出すことができた。本当に感謝してもしきれない。

いじめを受けていた頃は、人に心を開けず、友達なんか一人もいなかった。でも、3年生になった今では、心を開けるようになり、親友と呼べるまでの大切な友達もできた。自分の存在が疎ましく、毎日通うのが苦痛だった学校も、今では、安心できる居場所となった。学校が楽しくて仕方がない。私は今、とても幸せだ。

いじめの経験は私を成長させてくれた。自分が変わるためには誰かからの助けを待つだけではなく、自ら一歩を踏み出さなければならないこと、自分を偽らず正直に表現すること、そして、一番大切なことは私自身が周りの人を思いやること。私はいじめの経験から大切なことを学ぶことができた。

いじめをする理由は様々あると思う。「社会的じゃない」「容姿がみんなと違う」「一部分がみんなより劣っている」。でも、それは当たり前なことではないのだろうか。

金子みすゞさんの詩に、「みんな違ってみんないい」という言葉がある。それぞれが別々で、でもそれに優劣はなく、すばらしいのだ、という意味である。みんなが同じ顔、同じ容姿、同じ性格では社会は成り立たない。だからこそ、互いを認め合いながら生きていかなければならない。それぞれに個性があるから社会が成り立っているのだ。

私は、いじめを見ている人、いじめをしている人、いじめをされている人、それぞれに伝えたいことがある。まず、いじめを見ている人。今、少しでも助けたいという気持ちがあるなら、勇気を出して、いじめられている人に声をかけてあげてほしい。いじめられている人は「私の味方は誰もいない」という孤独感でいっぱいだと思う。声をかけてあげるだけでも心が楽になるはずだから。そして、決していじめる側の人間にならないでほしい。

次に、いじめをしている人。いじめは立派な犯罪だ。それでも、まだ、あなたは人を傷つけますか。自分のやっていることが人として本当に正しいかどうか、考え直してほしい。あなたのその一言が、あなたのその行動が、相手の命を奪うかもしれないということに気づいてほしい。

最後にいじめをされている人。今苦しくて悔しくて、もうこんな人生捨ててしまいたい、そう思っているかもしれない。私もそうだった。でも、死んで何になる。あなたが死んでしまったら、どれだけたくさんの人が悲しむか考えてほしい。あなたのたった一つの尊い命を捨てないでほしい。

「生きていて良かった」そう思える日が必ずくるから、全力で生きて。逃げていいんだよ。人生は自分の努力次第でどうにでもなるから、今は自分の命を大切にしてほしい。

私も、この経験から学んだことを活かし、たくさんの人に支えられ、助けられた自分のたった一つの命を大切に、自分は自分らしく幸せになるために、しっかりと私の人生を駆け抜けていきます。

この主張をどんな人に届けたいですか？

私が中学校に入学をしてすぐに受けた「いじめ」の体験から、学んだことやそれを通して成長できたことを、この社会に生きている人、全ての人に伝えたいと思いこの弁論を書きました。

特に今、「いじめ」で苦しんでいる人、周りの「いじめ」を見て見ぬふりをしている人、そして、心ない言動で周りの人を傷つけている人には、私の思いを強く伝えたいです。

寺津小児童が、環境大臣賞と優秀賞をダブル受賞

山形新聞(2019年2月27日) 記事より

環境省が地球温暖化防止のアイデアを募集した「クール・チョイス・リーダーズ・アワード2018」で、ともに天童市寺津小5年の石川結歌さん(11)が最高賞の環境大臣賞、片桐七海さん(11)が優秀賞に輝いた。ダブル受賞の快挙に、同校では「本校独自の授業の成果ならうれしい」と手応えを感じている。

環境省が温暖化防止のため提唱する国民運動「賢い選択(クール・チョイス)」推進の一環として実施。5部門に全国から710件の応募があり、気象予報士の井田寛子さんらが審査に当たった。アイデアリーダー(子ども)部門の大臣賞1点と優秀賞2点しかない入賞枠を、同校の児童2人が占めた。

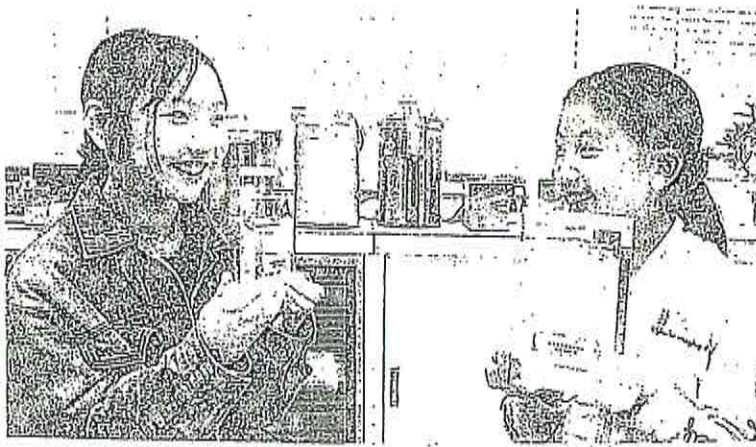
石川さんの作品は「ふむと発電できるゆか」。階段や体育館の床を踏むごとに発電し、蓄電池に蓄えるシステムだ。自転車の発電ライトをヒントにひらめいたといい、「世界からたくさんの人が集まる東京オリンピックまで実用できたら

3/7 山新

環境省公募の温暖化防止策

寺津小(天童)の2人入賞独占

副賞の盾を手にする石川結歌さん(右)と片桐七海さん
=天童市寺津小



すごい」と目を輝かせる。2人は口をそろえる。人工知能(AI)にも取り組むを広げている。

「自宅ですっけっ放しのテレビってエコじゃない」と感じていた片桐さんは、人を感じするセンサーでつい技術)推進校。村山産業高とオンラインでやりとりしているほか、昨年度からプログラミング教育を導入し

石川さん最高賞
片桐さん優秀賞
構想合体、製品化が夢

とたたえる。その上で、「高校生の力を借りたり、プログラミングを活用したりして、児童のアイデアや夢を実現していく学びをどんどん進めたいと話した。

(阿部研一)



作と池
のこ電
さんむ電
さ踏され
を電され
結を蓄え
歌床をら
さん品に
の品に蓄
えらる

◇市立小学校の取組

| 学校名 | 事業名 | 対象者 | 内容、成果、課題等 |
|------|--|----------------------|--|
| 天童南部 | 南部っ子サポーターとの連携 <構成>天童南部地域づくり委員会委員、天童南部小学校PTA役員及び活動に参加できる方、第一中学校PTA南部地区の役員、天童南部老人クラブ会員で同会長が推薦する者、社会教育推進員、青少年育成推進員、その他「南部っ子サポーター」の趣旨に賛同し、見守りをしてくださる団 | 南部小児童 (登下校の見守り) | 本学区には、南部っ子サポーターという子ども達の安全を守る組織がある。 ・通常活動…目印となる共通のオレンジの帽子をかぶって散歩や買い物等の外出の時に、登校や下校時刻に合わせて子ども達の見守りを行っていただいている。 ・特定活動…毎月7のつく日を「南部の日」として、南部っ子サポーターが所定の場所で見守り活動を行っている。毎月7日は、学校職員も南部っ子サポーターと一緒に朝の立哨活動を行っている。 地域の方々目のあることで、子ども達が安心して、安全に登下校することができる。(防犯面・交通安全面) |
| | 南部地区運動会の入場行進を南部小「鼓隊クラブ」が先導 | 天童南部小鼓隊クラブ (4～6年) | 毎年、9月に行われる南部地区運動会の開会式前に、本校の「鼓隊クラブ」がアトラクションとして演奏を披露し、地域の方々からたくさんの拍手をいただいている。 |
| | 南部地区敬老会への参加 4年児童による「合唱発表」 | 天童南部小4年児童 | 毎年、本校の4年生児童が市小学校合同音楽会で発表する歌を9月の南部地区敬老会で披露し、地域のおじいさん、おばあさんに大変喜んでいただいている。 |
| | 南部公民館フェスティバル、南部小児童作品を展示 | 天童南部小児童 | 毎年、南部公民館フェスティバルに本校児童の作品を飾っていただいている。各学級から1点の出品になる。内容は図画や工作、習字等である。地域の方々に子ども達のがんばりを見ていただくことができるよい機会となっている。 |
| | 「わくわくサタデー楽校」への参加呼びかけ | 天童南部小児童 | 天童南部放課後子ども教室推進事業として、「わくわくサタデー楽校」を年に6回行っていただいている。学校としては、公民館からいただいたちらしを児童に配付し、参加を呼びかけている。毎回楽しい活動を考えてくださっているので、子ども達はとても楽しみにしている。 |
| | 地域のイベントで「維新軍楽」演奏披露 | 天童南部小6年児童全員 | 6年生はいろいろな地域のイベントで維新軍楽の演奏を披露している。天童の春の風物詩である「天童桜まつり」での演奏、「建勲神社例大祭」では、市内を勇壮に練り歩いて演奏し市民の方々からたくさんの声援をいただいている。今年度は天童市民文化会館で行われた県民文化芸術祭にも出場している。地域を愛し地域を誇りに思う子どもを育てようと総合的な学習の時間で6年生が5年生に引き継ぐ形で、代々受け継がれている。 |
| 天童中部 | 土曜いちよう楽校 | 児童 | 児童への参加呼びかけ 学年主任が事業へ参加することで児童の地域での姿を知ることができる 皆出席の児童もあり、楽しみにしている児童も多い |
| | 安心・安全マップの活用 | 職員 児童 | 地図から具体的な危険個所がわかる 安全な登下校の意識づけをしている |
| | 地区レクリエーション(マーチングバンド参加等) | 児童 | マーチングバンドが参加しており、貴重な発表の機会の1つとなっている |
| | 公民館フェスティバル 分館文化祭 | 児童 | 5学年合唱発表・ダンスクラブの発表の場を提供してもらっている 作品を展示して地域の方に広く見ていただいている |
| 天童北部 | 天童桜祭り | 5、6年生 | 北部太鼓の発表 人間将棋のオープニングセレモニーで演奏を披露した。多くの観客から賞賛を受け、子ども達の自信になった。 |
| | EM菌づくり | 全校生 | 天童北部地域づくり委員の指導の下に行った。 培養したEM菌をプールに入れることで、プール清掃が簡便になっている。 環境を守っていこうとする気持ちが育ってきている。 |

◇市立小学校の取組

| 学校名 | 事業名 | 対象者 | 内容、成果、課題等 |
|------|----------------------|-------------|--|
| 天童北部 | 天童夏祭り | 5、6年生 | マーチング・カラーガードがパレードに出演。多くの観客から賞賛を受け、子ども達の自信になった。 |
| | 天童北部地区レクリエーション大会 | 5、6年生 | マーチング・カラーガードがパレードに出演。開会式のオープニングで披露。地区の方々から喜ばれている。 |
| | 天童北部地区敬老会 | 5、6年生 | 北部太鼓の発表 オープニングセレモニーで演奏を披露した。地区のお年寄りや役員の方々から喜ばれている。 |
| | 水仙の球根植え | 5年生 | 地域づくり委員会の協力を得て、押切川の土手に球根を植えた。(水仙祭りに向けての活動) 押切川を水仙の花でいっぱいになりたいという思いが高まっていた。 |
| | 雪灯籠祭り準備 | 4年生 | 地域づくり委員会の協力を得ながら、雪灯籠づくりを行う予定でしたが、雪不足のために中止となりました。 |
| 成生 | EM発酵液づくり | 全学年 | 成生地区地域づくり委員の指導の下に行っている。プールに培養した菌を入れることで、きれいで、環境にもやさしいプール清掃ができる。 |
| | エコキャップ回収 | 全学年 | 地域づくり委員会からの要請で、児童会環境ボランティア委員会を中心にして毎週木曜日を回収日とし、回収を行っている。今年度は、高橋寛人氏を招き、エコキャップについて学習会を実施した。 |
| | イバラトミヨ学習会 | 4年 | イバラトミヨを研究されている武田隆吉氏から講話をいただいた。研究のために人工飼育したイバラトミヨを譲っていただき、飼育している。児童は、氷河時代から生息している絶滅危惧種であるイバラトミヨに関心をもち、環境を守る大切さに気付くことができた。4年生は、観察のため、高木のひょうたん池にも足を運んでいる。 |
| | 3世代交流(成生公民館事業) | 参加希望者 | 1月12日、成生公民館において「3世代交流会」が行われた。公民館(成生地区地域づくり委員会)主催、休日の行事であるため、希望者の参加であった。「餅つき」「団子刺し」「縄ない」等伝統的な行事を地域のおじいちゃん、おばあちゃんにおしえていただきながら、楽しく交流することができた。 |
| | サケの稚魚放流 | 2年 | 3月11日に、サケの稚魚を押切川に放流予定である。 |
| | りんごの学習 | 3年 | 地区の森谷氏を講師に、りんご栽培の一年間について学習した。学習したことをもとに「りんごショップ」を開催して、全校生を招待するなど好評だった。 |
| | スキーの学習 | 3年 | 地区に住む天童高原スキー学校のインストラクターを講師に、スキーの初歩段階の動きについて指導していただいた。 |
| | 雅楽教室 | 6年 | 地域の方をお迎えし、実際に曲を聴いたり着付けを体験させていただいたりして、雅楽に親しむ機会を設けている。 |
| | 地区公民館文化祭 大清水地区文化祭 | 全校生 対象児童 | 作品を展示し、地域の方に広く見ていただいている。 |
| | 成生地区敬老会への参加 | 3・4年 | 市小学校音楽会で発表する歌を、9月の成生地区敬老会で披露した。地域のお年寄りの方々がとても喜んでくださるとともに、子どもたちにとっても励みになっている。 |
| 蔵増 | 田んぼの水探検隊 | 5年生 19名 | 「水土里ネット三郷堰」の自主事業に総合的な学習の時間のテーマ追究を関連させて実施した。田んぼや用水路の役割を実地を通して深くことができた。 |
| | 一人暮らしのお年寄りへのお手紙贈呈 | 3年生 23名 | 7月と1月の年間2回、一人暮らしのお年寄りの方に食生活改善推進委員が作るお弁当に、3年生が書いた手紙を添えてお届けした。 |

◇市立小学校の取組

| 学校名 | 事業名 | 対象者 | 内容、成果、課題等 |
|----------|-------------------------|--|--|
| 蔵増 | 地区敬老会での発表 | 1年生 28名 | 公民館からの要請を受けて実施した。今年は歌や朗読を発表し、お年寄りからたくさんの拍手と感謝の言葉ももらって子どもたちも大満足だった。 |
| | 地区文化祭への作品出品 | 全校生 134名 | 公民館で行われる地区文化祭に、全校生が硬筆や毛筆での書写作品や工作を出品した。 |
| | 学校田「蔵田」での米作り | 5年生 19名 | 総合的な学習の時間、米作り体験活動の指導者役として児童の祖父母と蔵増南老人クラブにご協力を要請して実施した。収穫した米を学習発表会後に販売、好評を得た。また、1年間蔵田での米づくりに関わった人たちを招いて「蔵田感謝の会」を行った。収穫祭では、全校生に収穫した「幸福米」を食べてもらい、「おいしいね。」と言われて、達成感を味わうことができた。 |
| | 親子手話教室 | 4年生 19名 | 地域づくり委員会の協力を得て実施。児童だけで1回、親子で1回実施（祖父母参観時）した。障がいをもつ方との交流について考えたり体験したりできる機会となった。 |
| | ボランティアサークル「青い鳥」の読み聞かせ活動 | 全校生 134名 | 毎月第1、第2水曜日、朝の活動時間に上下学年に分けて実施。読書の楽しさに触れる機会になっている。 |
| | クラブ活動 | 4年～6年 61名 | クラブ活動の指導者を地域に要請。担当職員はコーディネーターとして活動内容の立案と児童への連絡を行いながら地域指導者とともにクラブ活動を運営している。 |
| | いなほっ子遠足 | 全校生 134名 | 縦割り班ごとに地域の史跡等を巡る「いなほっ子遠足」を、6年生の企画で行った。西沼田遺跡やきゅうり天皇（八坂神社）などの目的地では、矢野目地区に伝わる伝説や歴史について学びながら、縦割り班のメンバーが仲良く活動できた。 |
| | 地域学習 | 1～3年 73名 | 生活科、総合的な学習の一環として実施した。公民館や農協など地域の施設を訪ねてまわり、その役割や仕事のくふうを学習した。 |
| 西沼田で遊ぼう会 | 全校生に呼びかけ希望者のみ | PTAが主催し、夏休みに地区内の西沼田遺跡公園で魚捕まえ等を企画した。自然の中で、親子で触れ合いながら楽しく活動できた。 | |
| 寺津 | 干し柿づくり | 全校生 | 全校生が“干し柿づくり”を体験する「寺津地域づくり委員会主催」の恒例行事である。この行事は今年で12年目を迎え、ねらいは「地域の伝統文化を次の世代に伝えること」と「地域における異世代交流を図る」の2点である。今年度は11月2日（金）に実施したが、地域のおじいさん、おばあさん、お母さん方が先生となり、ナイフやピーラーの使い方や皮のむき方、紐への取り付け方等をご指導していただいた。 干し柿は、お世話になった方々にお贈りすると共に、子どもたちも12月中旬に持ちかえり、家庭で味わった。 この行事が継続できているのは、主催者である「地域づくり委員会」の方々をはじめ、当日ご指導して下さる方々、さらに、毎年沢山の柿を無償で提供して下さる方々等のおかげである。 |
| | 三郷堰見学 | 4年 | 水土里ネット三郷堰（三郷堰土地改良区）の方々のご協力をいただき、学校での学習会の後、「田んぼの水探検隊」として、バスで施設・設備の見学をした。最上川から水を取り入れる三郷堰頭首工や中山揚水機場・須川を横断する333mの水管橋などを見学した。また、水温を実感する体験や津波体験などもできた。今年度は7月17日（火）に実施したが、この学習によって、三郷堰の歴史や稲作のために必要な水の確保や管理について学ぶことができた。 |

◇市立小学校の取組

| 学校名 | 事業名 | 対象者 | 内容、成果、課題等 |
|-----|--------------------------|---------------------------|--|
| 寺津 | 公民館フェスティバルでの合唱披露・書写作品の展示 | 合唱披露は3年・4年 書写作品の展示は全校生 | 「寺津公民館フェスティバル」において、市小学校音楽会に参加した3・4年生の子ども達が合唱を披露した。保護者や地域の方々からは、大きな拍手をいただいた。 また、全校の子ども達の書写作品も展示していただいた。当日は、食改の料理を味わったり、展示物を鑑賞したりしながら楽しい時を過ごすことができた。 |
| | 地域に出向く「全校遠足」 | 全学年 | 本年度で3年目を迎える縦割り班単位で行う全校遠足。一昨年は「天童の市街地」を、昨年度は「山寺」を舞台に行ったが、本年度は「地元寺津」を探検し、学びを深めた。班毎、学びの部と遊びの部を設け、地元にある神社仏閣や三郷堰土地改良区資料館、産直センターやオートメンテナンス等の施設等で、多くの関係者の方々はその歴史や役割、仕組み等を教えていただいた。帰り道では、日頃からお世話になっている地域に恩返しのお気持ちを込めて、ごみ拾い活動も行いながら帰校し、ごみの分別作業も体験した。 |
| | 地域の特産物に学ぶ | 5年 | 5年生による「寺津のみ力をPRしよう」（総合的な学習の時間）という単元。バケツ稲に取り組んだ5年生は、その他の農作物として、全県でも有名な「寺津ごぼう」に注目して、その栽培の仕方を農家の方に学んだ。その成果として、寺津ごぼうが、西沼田の古代米とともに、市内の給食で食材として取り上げられた。また、地元寺津をさらに有名にするための手立てを模索し、「ねぎびとカンパニー」の清水さんに農作物への熱い思いも含めてご指導していただいた。それによって、6年生に進級後、寺津ブランドの野菜を東京で販売したり、その様子をホームページで紹介したりするという大きな夢を抱いている。 |
| | 寺津地区探検 | 2年 | 2年生では、生活科の「ぶらり寺づたびⅡ」という単元で、「JA寺津支所・三郷堰土地改良区資料館・寺津郵便局」の3か所を中心に取材活動を行った。その成果を全校の子ども達に紹介するために、自分たちでシナリオを作り、発表朝会の場で演劇の発表を行う予定である。 |
| | 将棋への取組み | 将棋クラブ | 将棋クラブでは、天童の将棋連盟の方々がお局相手になり、子ども達に将棋の指し方のご指導をしてくださった。大人1人で2人の子ども達と同時にお局し、両局とも子ども達が負けてしまうこともあり、名人の技術の高さに感服していた子ども達。結果的に子ども達の将棋への関心を高めることにつながった。本年度は、天童市の「二千局盤来2018 将棋ギネスに挑戦しよう」の企画に、一部の子ども達も参加した。廊下には移動式黒板にマグネット付きの将棋の駒をはるなど、本校全体で将棋への盛り上がりが見られる一年になった。 |
| | 稲作体験学習 | 5年 | 学校で随時稲の成長が観察できるように、5年生では「バケツ稲」の栽培活動に取り組んだ。その際、栽培のポイントとなる部分のご指導をいただくために、年間を通して「JA寺津支所」の職員の方にお世話になった。学校内に自分が育てる稲があるというこの環境は、農家の人の苦労や喜びを直に理解できるという意味でとても価値のある学習となった。 |
| 津山 | 米づくり | 5年児童 | 5年総合的な学習の時間において、一年を通して米づくり体験学習を実施した。専業農家の保護者を講師として、田起こしから水の管理、除草について教えていただいた。また、公民館を通して地区老人クラブの方々には稲刈りに協力をいただいた。児童は、収穫した米「雪月米」の会食も含めた「感謝の会」を企画・実施し、支援していただいた方々に大変喜んでいただいた。 |

◇市立小学校の取組

| 学校名 | 事業名 | 対象者 | 内容、成果、課題等 |
|-----|---------------------------|----------------------------------|--|
| 津山 | 自然を守る会事業の自然観察会や環境調査 | 希望する1～6年生児童、保護者、地域住民、教職員 | 「津山の自然を守る会」主催事業として行われた①ジャガラモガラ桜回廊「親子で鑑賞ハイキング」、②ジャガラモガラにおける蛍の観察会、③倉津川の清流化に向けた水質調査に児童、教職員も参加し、改めて自然の不思議さと素晴らしさを感じることができた。 |
| | だんご木づくり | 1, 2年児童 | 公民館を通して、地区の老人クラブの方々に依頼をしていただき、多数の協力者の派遣をいただいた。だんご木をつくる協力だけでなく、行事の意義、だんごに込められた願いを教えていただいたり、年の初めにふさわしい昔話を聞いたりした。 |
| | 朝の読み聞かせ | 全学年 | 読み聞かせボランティア6名の方々に月1回をめぐりに朝8時25分から40分の間に読み聞かせをしていただいている。読書へ親しむ機会として、子どもたちは楽しみにしている。 |
| | 学区探検 | 2年児童 | 地域についての理解を深めるために、学区内の施設や場所を訪問した。若松寺やジャガラムラ、自動車整備工場などを訪れ、歴史や自然、役割などについて質問したりして気になることを解決していった。地域の方々にはとてもいい対応していただき、ありがたかった。 |
| | 見守り隊 | 全学年 | 津山見守り隊42名の方々に、日常生活の中で「子どもたちの見守り」活動を通して地区内の安全確保をしていただいている。また、5月に顔合わせ会を開催している。見守り隊の方々のおかげで、子どもたちは安心して登下校できている。 |
| 山口 | 朝の読み聞かせ（お話ポケット） | 全児童 | 毎週木曜日、朝読書の時間を使い、読み聞かせを実施。読み聞かせボランティアばかりでなく、教職員も読み聞かせを行っている。 |
| | 生活科・総合・教科での地域の先生内容は例を記載 | 1年 2年 3年 4年 5年 6年 | 畑の先生 地区探検 果物農家（りんご栽培） 紅花栽培 田植え・稲刈り・脱穀・感謝の会 ふるさと発見活動 |
| | ふるさと発見活動（6年総合・学校行事） | 全児童 | 6年生が、自分の地区について学び1～5年生に発見したことをプレゼンテーション。下級生は自分の行ってみたい地区を選び、地域を学ぶ。窓口、企画等全て6年生が担当する。 |
| | 宿泊学習 | 4・5年生 | 学区である田麦野にある市立高原の里交流施設「ぼんぼこ」で実施。田麦野地区について5年生が学んだことをもとに4年生に説明しながら地区を巡る活動。5年生は2泊3日、4年生は1泊2日（5年生の2日目から）で、それぞれ入所ハイク（約7km）を歩く。リーダーキャンプがあるため、自然体験中心の宿泊学習ではなく、生活を作る（生活体験）を中心としたねらいで実施。 |
| | クラブ活動 | 4年生以上 | 将棋クラブでは、地域の先生をお招きして指導していただく。 |
| | 世代交流事業（老人クラブからの講師）内容は例を記載 | 1年 2年 3年 4年 5年 6年 | 昔の遊び だんご木作り 昔の道具 原崎沼の環境・歴史 なわな 戦争当時の話 |

◇市立小学校の取組

| 学校名 | 事業名 | 対象者 | 内容、成果、課題等 |
|-----|------------------------|-------|--|
| 山口 | わくわくみのりっ校 (年4回) | 全児童 | 6月・7月・10月・3月の授業日15:00~16:30の時間実施。地域先生方42名が5~6つのワークショップ(将棋・輪投げ・サッカー・折り紙・紙飛行機ETC)などを用意し、児童が活動。毎回120名程度の児童が参加。高学年の参加をより多くしたい。群れて遊ぶことの経験が不足しているのではないかという反省から |
| | ジュニアリーダー キャンプ | 5・6年生 | 7月下旬に6年生(天童高原でキャンプ)。1月下旬に5年生(朝日少年自然の家でチューブ滑り)1泊2日の活動を行う。子ども育成会が中心となり実施。今年は、「リーダー」のじょうけになりたいかなど話し合いも行った。 |
| | ジュニアスタッフとして 地域行事に参加 | 4年生以上 | 山口まつりに合唱を披露。きらめきの里でも披露した。また、ジュニアボランティアとして事業を手伝う。 |
| | その他 | | 見守り隊・あいさつ立哨・学年行事に水晶山を愛する会など多くの地域の方にお世話になっている。また、年に1回、「みのりっ子を語る会」を公民館で実施し、子どもについての話し合いを行っている。 |
| 高掬 | 総合的な学習の時間 | 4年 | 子ども獅子踊りのモデルになっている、高掬の獅子踊りの歴史について理解を深めるために、獅子踊り保存会の方に話をしていた。また、地域に豊富な水について、地域の方から湧き水や高掬堰について話をしていた。子ども達は、地域に伝わる本物の獅子頭や踊りや湧き水や堰について知り、大切にしていこうという気持ちをもつことができた。 |
| | 総合的な学習の時間 | 5年 | 地域の方・保護者の方・JA高掬支所の営農指導員さんから、田植え、稲刈り、脱穀を教えていただいた。自分たちで育てた米を食べ、収穫の喜びを味わうことができた。 |
| | 総合的な学習の時間 | 6年 | かつて高掬から北海道に広まった「ハッカ」について学習をした。地域づくり委員会の方からさまざまなサポートを頂き、栽培や加工等についても行うことができ、地域の宝を大切に引き継ごうという気持ちを持つことができた。 |
| | りんご園見学 | 3年 | 学区内のりんご園を訪問し、仕事の内容を説明していただいたり、摘果や収穫の体験をさせていただいたりした。毎年、体験をさせていただいて、子ども達にとって貴重な生きた社会科の授業となっている。 |
| | 学区探検 | 2年 | 地域についての理解を深めることをねらいとして、学区内商店や施設を訪問して、課題別の調べ学習を行った。お忙しい中にもかかわらず、地区の方々には丁寧に対応していただき、ありがたかった。子ども達は、地域の商店や施設をより身近に感じる事ができ、地域のことをもっと知りたいと思うことができた。 |
| | 三郷堰 | 5年 | 三郷堰管理組合の方から三郷堰の歴史や大切さについて話してもらった。米づくりに必要な水の管理について理解を深めることができた。 |
| | 地域カフェ事業 「こっ茶こい」 | 2年 | 地域カフェ事業高掬サロン「こっ茶こい」に2年生が参加し、学習したことを発表した。その後高齢者の方と懇談し交流を深めた。 |
| | 高齢者施設訪問 | 鼓隊クラブ | 地域の特別養護老人ホームの「羽陽の里」を訪問し、演奏活動を通して、お年寄りとおふれ合うことができた。 |
| | 道徳 | 4年 | いのちの学習に関連させ、サケの遡上の見学をした。今年度は遡上数が少なく、その様子は見られなかったが、サケの死骸やサケの卵をみて、いのちの連続性について考えることができた。 |

◇市立小学校の取組

| 学校名 | 事業名 | 対象者 | 内容、成果、課題等 |
|-----|-------------------------------|------------------|---|
| 高橋 | 茶の湯体験 | 6年 | 地域の方を講師とし、社会科の学習とからめて茶の湯を体験することができた。 |
| | クラブ活動 | 囲碁・将棋クラブ(4・5・6年) | 将棋愛好会の方々に、将棋や囲碁を教えてもらったり、対戦したりして楽しさを教えていただいた。子ども達は、地域の方々と対戦することをとても楽しみし、勝つことを目標に意欲的に取り組むことができた。 |
| | ふるさと学習(たつたか高橋) | 全学年 | 公民館での地域の方による展示や企画に児童や保護者が参加した。また、PTAの実行委員・地域づくり委員会の企画したウォークラリーに縦割り班で、上学年が下学年の世話をしながら楽しく参加することができた。地域の方と楽しく触れ合い、地域のお宝を知り、地域の方々とのつながりを深く感じることでできる活動になっている。 |
| | 見守り隊 | 全学年 | 高橋地区見守り隊の方々に、毎日の登下校での子ども達の安全を見守っていただいている。4月には「顔合わせの会」を、12月には「感謝の会」を開催している。見守り隊の方々とあいさつを交わし、子ども達は毎日安心して登下校できている。 |
| 長岡 | 地域づくり委員会「長岡子ども遊び塾」 | 全学年 | 生涯学習推進員が地域づくり委員会の一員となり、「長岡子ども遊び塾」の企画・運営に携わった。クッキー作り、流しそうめん、スライム作り、かるた取り大会、お菓子の家づくり等々、様々な企画に多くの児童が楽しく参加できた。 |
| | クラブ活動「茶道クラブ」「科学クラブ」「アウトドアクラブ」 | 4～6年生(約40名) | 茶道の師範の先生、村山地区天文・科学ラボの先生、地域のガールスカウト指導者の先生をお招きし、子どもたちに本物の体験をさせるクラブ活動を目指した。それぞれのクラブが充実した活動をすることができた。 |
| | 6年生 社会科「室町文化を体験しよう」 | 6年生全員(57名) | 長岡公民館の和室において、6年生約60名が、講師の先生から千利休や茶道の道具、作法についての講話を拝聴した。その後、一人ひとりが抹茶とお菓子を作法に基づいて味わった。 |
| | 総合的な学習の時間 | 3～6年生 | 各学年各学級とも、地域の先生をゲストティーチャーとしてお招きし、活動の内容や子どもたちの学びを深めることができた。(和菓子店の先生、神輿会の先生、盲導犬協会の先生、ソーラー発電の先生、高校のダンス部の皆さん、デザイナーの先生等) |
| | 6年生 社会科「選挙啓発出前講座」 | 6年生全員(57名) | 天童市地域いきいき講座のメニューから選挙管理委員会担当の「選挙啓発出前講座」を依頼し、6年生の社会科の学習と関連させて、主権者教育を行った。実際に選挙を運営している方から説明を受け、投票用紙・投票箱・記載台のほか、入場券や選挙公報も本物に近いものに触れて、子どもたちの選挙に対する関心を高めることができた。 |
| 干布 | 干布小・四谷小の交歓会事業 | 6年生 | 東京都新宿区立四谷小学校との交歓会事業(夏と春の年2回)を、公民館と地区の青少年育成会が主催し、学校が協力して実施している。夏は干布地区を会場にキャンプと民泊を3泊4日で実施し、春は四谷を会場に都内見学、民泊を実施している。この交歓事業は30年度で46周年を迎えた。 |
| | 小学生スピーチコンテスト | 4～6年各2名 | 地区公民館大会事業として、小学生が、自分が普段考えていることや地区についてのことなどをテーマに意見文を書いて発表し合う。自分が住んでいる地域のことを考えたり、大勢の人前で発表することにより、小学生の健全育成につながっている。20年以上継続している事業である。 |

◇市立小学校の取組

| 学校名 | 事業名 | 対象者 | 内容、成果、課題等 |
|-----|-------------------------|-----------------------------|---|
| 干布 | 交通安全の集い (干布地区防災図上訓練) | 3・4年各2名 (各地区の代表の小学生) | 市交通安全推進協議会干布支部が主催している事業で、第2部の「交通安全の誓い」に代表児童が参加している。PTA主催の交通安全標語コンクール(3・4年)で入賞した児童が標語を発表し、交通安全の大切さを地域の人に呼び掛けている。 (今年度は、訓練の内容から、小学生の参加要請はなかったが、年度によっては参加している。) |
| | 敬老交流会 | 1・2年 | 民生委員さんの「いきいきサロン」の活動とタイアップし、学区内にお住まいのお年寄りに学校に来ていただき、1・2年生の児童と一緒に、昔の遊びをしたり給食を一緒に食べたりした。 |
| 荒谷 | ダンゴ飾り | 1・2年 | 更生保護女性会や老人クラブで企画して下さる世代交流事業「ダンゴ飾り」に、1・2年児童が生活科の学習の一環として参加した。小正月の行事「ダンゴ飾り」の意義を教わりながら、一緒に団子さしを行い、公民館、学校にダンゴ木を飾り付けた。地区内のお年寄りと交流しながら、伝統文化に触れることができた。 |
| | 特別養護老人ホームあこがれとの交流 | 4年 | 学区内にある特別養護老人ホームに総合的な学習の時間の取り組みとして交流してきた。施設見学と入所者の方との交流、本校の運動会や学習発表会への招待など、交流を通して福祉のこころを学んできた。 |
| | 雪かきボランティア | 5・6年 | 学区内にお住まいのお年寄りの家を民生委員さんに紹介して頂き、1月の下旬に雪かきをさせて頂いた。それぞれの家に、5・6年児童3・4名と引率職員1名が訪問し、家の方から指示されたところの除雪をさせて頂いた。家庭でもあまり経験していない除雪を体験し、雪かきの大変さを実感すると共に、地域の一員として地区の方の役に立つことの大切さうれしさを実感することができた。 |

天童市「市民科」の作成について

1. 目的

ふるさとの理解を深め、市民として生きる姿勢を育み、働く・活動する人から学び、故郷「天童市」に誇りが持てる子どもを育てるため、天童市に関する教科書（副読本）を編集、作成する。

2. 内容等

天童市「市民科」は、中学1年生を対象とする内容とし、新中学1年生に配布する。なお、各中学校では、社会科、家庭科、道徳、特別活動や総合的な学習の時間等の副読本として使用する。

主な内容は、

①ふるさとを理解する

（歴史、文化財、神社仏閣、偉人、特産・地場産業、まつり、名所など）

②ふるさとで暮らす

（交通安全、ごみ、ボランティア、まちづくり、子育て・健康・介護など）

③ふるさとで働く

（企業紹介、地域で活躍している人々の紹介など）

3 編集委員及び事務局（案）

| 役 職 | 氏 名 | 備 考 |
|----------|-----|---------------|
| 編集委員長 | | 教育長 |
| 編集副委員長 | | 小中学校校長会会長 |
| 〃 | | 教育次長（教育総務課長） |
| 編集委員 | | 各中学校長（4名） |
| 〃 | | 小学校長代表（1～2名） |
| 〃 | | 教育委員会各課長（3名） |
| 編集アドバイザー | | 市長公室広報係長 |
| 事務局 | | 教育委員会担当係長（4名） |

4 スケジュール（案）

平成31年 4月 編集委員等の決定（部長会、校長会へ説明）
 5月～10月 編集委員会（編集方針、内容等の協議など）
 11月～3月 編集委員会（原稿依頼、写真等の手配など）
 平成32年 5月 構成細部検討、原稿細部点検
 7月 印刷発注、校正
 8月 中学1年生に配布

5 予算等（教育振興基金の活用を検討）

当初作成 $950 \text{ 円} \times 1,000 \text{ 部} \times 1.1 = 1,045,000 \text{ 円}$ （2020年度当初予算）

次年度以降 $950 \text{ 円} \times 600 \text{ 部} \times 1.1 = 627,000 \text{ 円}$

6 原稿、資料の依頼

必要となる原稿、資料（写真等）については、編集方針・掲載内容が決定次第に市担当部課等及び関係団体へお願いする。

7 その他

公民館活動（高齢者教室等）で利用する場合や希望する者がいれば、市役所売店等において実費で販売する。（「天童市の文化財」と同様の扱い）